



アルキメデス

飯田市美術博物館自然部門

地域史研究事業ニュースレター

HEUREKA! INADANI

創刊号
(Vol.1)

ユリーカ! イナダニ

発行日 2006年2月1日

発行 飯田市美術博物館 〒395-0034 長野県飯田市追手町2-655

TEL 0265-22-8118 FAX 0265-22-5252 E-mail hiruma@iida-museum.org

地域史研究事業（自然）スタート！！

飯田市美術博物館自然部門では、平成17年度より新たに地域史研究事業をスタートさせました。



本事業の目的

伊那谷の自然情報を、市民や研究者の協力を得て掘り起こし、その成果を論文や展示、ガイドブック等で公表してゆきます。

伊那谷の自然に関する従来研究成果や、調査の過程で得られた標本や情報をデータベース化し、だれでも利用できるようにインターネットなどを通して公開します。

ニュースレター「HEUREKA! INADANI」創刊

「HEUREKA! INADANI」は、本事業に関わる情報を、広く市民の方にもお知らせするためのニュースレターです。事業の進行状況、ホットな研究話題、研究協力者の募集情報、出版情報などをお知らせしてゆきます。

HEUREKA（ユリーカ）とは、「発見した！もしくは見つけた！」を意味するギリシャ語で、ユリーカはその英語読み（ギリシャ語読みはエウレカ）。かつて古代ギリシャの科学者アルキメデスが、アルキメデスの原理（浮力の原理）を風呂場の中で思いついたときに「HEUREKA!」と叫んで走りまわったと伝えられています。

そこで、伊那谷での様々な発見を目指す本事業のニュースレターのタイトルを、「HEUREKA! INADANI」とさせていただきます。

本年度研究協力者，研究テーマ一覧

本年度は，水文，地質，植物，動物の4分野にわたり，以下の15名の研究協力を得て事業を進めています．

水文（1名）

川上陽一 「中央アルプス 濃ヶ池の水位低下原因と将来」

地質（4名）

久保田賀津男 「喬木村における塩基性岩脈の調査」

坂本正夫 「中期中新世津具・根羽火山群の火山体解明の研究」

手塚恒人 「中部地方領家帯，加ヶ須累帯火成岩体の地史」

田中 良 「生田花崗岩体中の柘榴石を含む花崗岩の分布とその火成活動」

植物（4名）

明石浩司 「戸台川谷底面における地形形成の編年と森林植生の対応」

北沢あさ子 「長野県南部の主にハナノキの生育する湿地に集中する、絶滅のおそれのある植物の現状報告」

佐伯いく代 「伊那谷における絶滅危惧植物ハナノキの分布状況」

北城節雄 「中山間地における農耕地の植生調査 - 伊那谷から失われていく在来植物を中心に - 」

動物（6名）

古田 治 「大鹿村周辺の双翅目相についての研究その1（ニクバエ科イェバエ科ヒメイエバエ科）」

小野 章 「上伊那産蝶類生息モニタリング・プロジェクト2005」

鷲田俊一 「豊丘村天竜川の野鳥の月別変化」，「下伊那におけるカワウの移動について」

桐生尊義 「ハクセキレイの侵入は進行しているのか」

菅原 寛・大原 均 「伊那谷の河川におけるスナヤツメ *Leihenieron reissneri* の棲息状況」

大原 均 「伊那谷におけるカワムツ *Zacco temmincki* の分布を中心とした生物地理学的研究」

ピックアップ HEUREKA!

このコーナーでは、本事業を進める中で寄せられたホットな話題を紹介してゆきます。今回は中川村の古田 治さんに、一風変わったハエのお話しをしていただきます。

伊那谷の昆虫の話 (1) ニッポンシカシラミバエ

中川村 古田 治 (地域史研究事業平成17年度研究協力者)

みなさんはシラミバエという虫をご存知でしょうか……。その名の通り、昆虫の中の双翅(ハエ)目に含まれるちょっと変わったハエの仲間です。哺乳類や鳥類の皮膚に寄生して吸血するハエなのです。その中でも、哺乳類に付くシラミバエであるシカシラミバエは現在日本では3種類、長野県では2種類が記録されているのですが、その採集記録はというと極めて少なく(記録数でいうとオオクワガタなどよりもはるかに少ない)まさにレア物的昆虫なのです。

シカシラミバエ類は大体同じような生活史を持っていて、しかもそれが他の昆虫にない変わったタイプであることが知られています。変わっているのは次の3つの特徴です(模式図参照)。

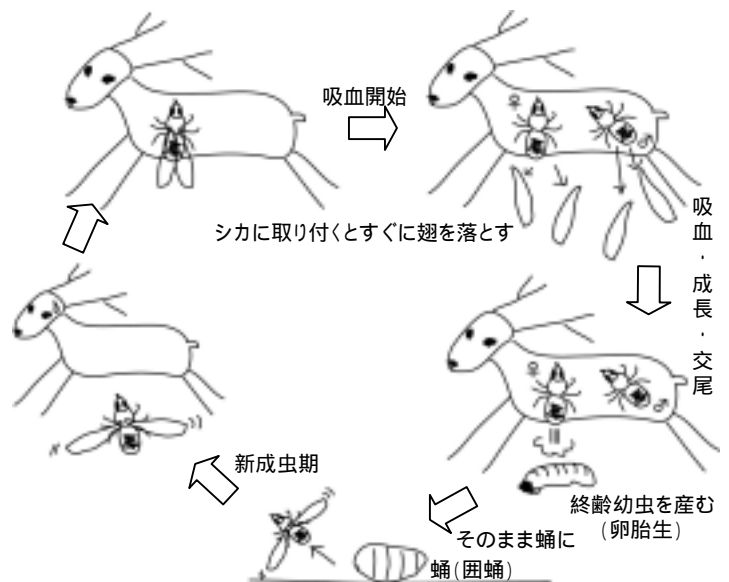
- 1: 新成虫時には翅(はね)があるが、寄主であるシカに取り付くと翅を落としてしまう。(鳥につくシラミバエ類は寄主に取り付いても翅を落とさないのが多い)
- 2: シカシラミバエ類は卵ではなく、幼虫を直接産む。(卵胎生)
- 3: 幼虫は生まれたときがすでに蛹化直前の終齢幼虫であり、直ちにシカの体から落下してその場で蛹になる。(つまり、シカシラミバエ類の幼虫はエサを全く食べない)



ニッポンシカシラミバエ 体長約4mm

ですからこれらを採集するには、シカを押さえ込んで、シカの体についてる個体を毛の中から探し出すか、偶然、シカから落ちた幼虫が羽化して新成虫になったばかりのところを探るかしかなく、これまで、ほとんど記録が出てこなかった昆虫なのです。(これまで奈良公園のようにシカが人によってくるような場所で、翅を落とした老熟個体が得られたという記録がほとんどでした)

ここ数年、寄主であるニホンシカが増えてきたこともあって、関西や長野県、山梨県で数例の記録が出てくるようになりました。ただし、これらは大体1~2頭の記録であり、まとまった個体数の記録ではなかったのです。



模式図 シカシラミバエ類の生活環

2005年秋に大鹿村で行なった双翅目（ハエ目）の調査の中で同じ場所で3週にわたって合計42頭ものニッポンシカシラミバエ新成虫が捕獲されました。このような新成虫の大量捕獲の記録はこれまではなかったことで、その捕獲状況は注目すべき情報です。初めに捕獲したのは山の広場のシカの糞溜まり周辺で、車を止めて、いつものように捕虫網で、草をスイーピング（網を振って採る方法）を始めて、しばらくしたときに、車に小さなハエが付いているのを見つけました。それが珍種といわれたニッポンシカシラミバエであることがわかり、その周辺を丹念にスイーピングしたところシカの糞溜まりの周辺で5頭ほどが得られました。その後うわさでは聞くが未確認の情報である、どうやって寄主（ホスト）を見つけるのかを試す意味もあり、シカの糞溜まりに車のボンネットを向けてみたり（熱源感知する力があればボンネットの熱に反応するはず）、逆にマフラーを向けてみたり（二酸化炭素に反応するのならばこれで反応するはず・・・蚊やブユやアブはこれにもものすごく反応する）、またシカのお尻の白い色に反応するのではといううわさも聞いていたので、車に白い布（夜間採集用のシート）をかぶせてみたりするものの、顕著な反応はありませんでした。しかし、全く反応がないかというところではなく、忘れた頃にふらっと飛んでくるのです。結局何が決め手なのかはいまだに判明していませんが、生かしたまま持ち帰った個体の行動を夜間観察していると、これらは顕著な正の走光性（光に集まる性質）をもっていることが確認できました。つまり、視覚的な情報をかなり頼りにして行動しているという事は間違いのないと思われます。

今回の一連の調査、観察で、まだまだ昆虫はわからないことだらけという事を思い知らされました。

お知らせ

第3回 飯田市美術博物館 研究活動報告会

「探究 伊那谷の自然と文化」が開催されます

飯田市美術博物館および上郷考古博物館の学芸員・専門研究員ならびに、それをとりまく市民・研究者による研究発表会です。全分野の学芸員の研究発表が行われる唯一の行事です。是非いらしてください。

日程 2月18日（土） 午前10:00～午後3:40 （美博日より記載の日程は変更になりました）

会場 飯田市美術博物館 2F 講堂

主催 飯田市美術博物館

第10回 伊那谷自然史発表会 研究発表者募集！

中学生から大人まで伊那谷の自然好きが顔をそろえる発表会です。一年間暖めてきた調査・研究発表の他、テーマを持った写真の発表、海外旅行や登山の報告など、自由に気楽に発表してみませんか？

日程 3月26日（日） 詳細はプログラム作成後決定します。

発表申し込み 3月5日（必着）までに美術博物館四方宛に郵便、FAX、E-mailなどで下記の項目をお知らせください。なお、発表者には追ってB5一枚ほどの要旨を提出していただきます。

- 1.発表者（団体）名、2.発表者（団体発表者）住所・電話（あればFAX・E-mailアドレス）
- 3.発表タイトル、4.発表の形式（口頭発表、ポスター発表、口頭・ポスター両方のどれか）を選択、
- 5.口頭発表につきましては、スライド、OHP、プロジェクターなどの使用機材もお知らせください。

問い合わせ・申し込み

〒395-0034 飯田市追手町2-655 飯田市美術博物館 村松・四方・蛭間

TEL 0265-22-8118 FAX 0265-22-5252 E-mail shikata@iida-museum.org

主催 飯田市美術博物館・伊那谷自然友の会

美博自然部門紀要 伊那谷自然史論集Vol.1～6 web公開開始！

この度、美博で毎年刊行している伊那谷自然史論集のバックナンバーの各論文がPDF化され、美博のホームページから無料でダウンロードできるようになりました。伊那谷の自然の掘り出し情報満載です。以下のページからどうぞ<http://www.iida-museum.org/publish/index.html>